



14/18/21/24/28MHz

High-Band DXing

JK1KSB 奥村 誠二 Seiji Okumura

オンフレ運用からスプリット運用に変わるとき

多くのDX局はオンフレでQSOを始め、パイルアップが大きくなるとスプリット運用に切り替えますが、その際CWであれば最後の「TU」の後に「UP」を打って指示することがよくあります。もし「TU」を聞いただけで反射的にコールをしていると、自分がスプリットの指示を聞き逃すだけでなく、引き起こしたQRMで指示をつぶし、他局までオンフレで呼び続ける原因となりがねません。「そろそろ混んできたな」と思ったら、「UP」を打たれることを前提に注意深くコールすることをお勧めします。また、指示を聞き逃したとしても突然オンフレで呼ぶ局が減りますので、注意していれば「何か状況が変わったな」と気付くでしょう。

さらに、スペクトラムスコープが装備されているリグで、少し高い周波数に急に山が現れれば「スプリットでUPになったな」と見当が付きますので、オンフレの場合は特に耳と目を総動員して冷静に空気を読みながら運用しましょう。いずれにしても、延々とオンフレで呼び続けて他局の迷惑とならないよう気を付けたいものです。

7V7V Algeria

北アフリカ・地中海沿岸ツアーを続けているUA4WHX Vladが、アルジェリアより1月22日からアクティブに運用した。22日や23日の夕方には14MHz RTTYがロングパスで入感しEUが大挙して呼ぶ中、JAにもコールバックがあった。特に23日の17JST前後はRSQ 559と良好な信号で、多くのJAがQSOできた。

また27日～28日にかけてはARA (Amateur Radio Algeriens) チームが実施したシュリア山 (2328m) からのDXペディション 7W0Aにも同行してQRV。その後は1月31日～2月2日にチュニジアからクラブ局の3V8CBと3V8ST、2月4日にはマルタから9H3WHX、4日～5日はシチリア島からIT9/UA4WHXで運用し、6日には再度マルタという情報もあり、相変わらず神出鬼没だ。

A35W & A35NN Tonga

JE1CKA 熊谷氏, JQ2GYU 櫻井氏, JJ2VLY 櫻井



今回A31MM宅にあがったアンテナの様子
ハイバンドで使用したスパイダー・ビームが左側に見える

トンガから運用したメンバー
左からJQ2GYU, JJ2VLY, JE1CKA, A31MM (JA6WFM)

氏 (XYL) が、1月25日～30日にA31MM 中村氏 (JA6WFM) のQTHから運用した。ハイバンドはまずA31MM 常設のR7 (パッチカル・アンテナ) を使ってオン・エアしたようだが、27日にスパイダー・ビームが上がり14/21/24MHzのCW/SSB/RTTYでS9+の強力な信号を送り込んでくれた。さらに28日10:30JSTごろから28MHzのCWとSSBにもトライし、深いQSBを伴いながらピークS6で入感。12JST前には弱くなってしまったが170 QSO以上の成果をあげた。SSNの状況や時間帯にもよるが、コンディション低迷期といえども太平洋周りは28MHzで可能性があるということなので油断禁物だ。なお18MHzはスパイダー・ビームがどうしても同調せず、QRVしなかったようだ。リグは持参したIC-7600と中村さんのIC-7300に小型のリニア・アンプだったが、ベアフットのときもあったとのこと。

A35WとA35NNの使い分けは、CQ WW 160m CW Contest (28日7JST～30日7JST) が始まるまでは1.8MHzだけA35NNで、それ以外のバンドではA35W。コンテスト中は全てA35W。コンテスト終了後は最初のパターンだった。QSLはJJ2VLYまで。

E51AMF & E51ADD North Cook Is. & South Cook Is.

K7ADD Benは1月6日～9日にE51ADDで南クック諸島のラロトンガ島 (OC-013) から運用し、その後1月11日～2月7日にE51AMFで北クック諸島のマニ



E51AMFのシャックの様子

ヒキ島 (OC-014) から運用した。設備はK3+SPE 1.3K-FAと海の近くに立てたSteppIR社製のCrankIR (パッチカル・アンテナ) を使用。北クック諸島は特にEUからの要求度が高く、Club LogのMost Wanted listで24位とかなり上位だ。そのため午後になるとEU向けのローバンドに移ってしまうことも多く、ハイバンドは若干やり難かったと思う。とはいえ、最多のNAに続きJAとも14～21MHzで約600 QSOしてくれた。

Benは2013年にハムを始めCWはまだ練習中とのことで、SSBとデジタルモード (RTTY, JT65, JT9, PSK31) でのQRVを選択した。また、今回は彼にとって初めてのDXペディションで、当初CWのオペレーターとして参加するはずだったN5EIL Neilの都合が悪くなり、やむなく1人で実行することになったそうだ。頑張ったと思う。E51AMF終了後はラロトンガ島に戻り、再度E51ADDでQRVした。

なお、このDXペディションは海外で人道支援、教育、慈善活動を行うアマチュア無線家に資金と情報を提供する「The Amateur Foundation」のスタートを記念したもので、詳しくは以下のWebサイトを参照いただきたい。

<http://amateurfoundation.org/>

P49X Aruba



P49Xを運用したシャックとW0YK Ed

昨年9月に続き、W0YK Edが1月3日～10日に運用した。今回はARRL RTTY Roundup コンテスト (1月8日3JST～9日9JST) への参加がメインだったが、その前にもよく出ており、14MHzで1月3日～4日にCW、6日にSSB、もちろんコンテスト中の8日はRTTYがいずれも

8JST前後に入感し、8日のRTTYはピークRSQ 599と強力だった。JAのハイバンドは14MHzだけしかQSOできず、今回は139 QSOという成果。18MHzにも出ていたようだが、VOACAPでも、最も可能性のありそうな8JST前後でさえ18MHzまでMUFが上がっておらず、コンディション的に難しかった。

運用はP40L (W6LD John) とP49Y (AE6Y Andy) 所有のコテージからで、Edは以前よりここから主要なRTTYコンテストに参加している。最近ではP40Lのオペレーターの1人としてCWコンテストにも参加しているようだ。なおP49XというコールサインはEdの恒久コールサインで、2006年にアルバのアマチュア無線試験を受けて発給されたとのこと。アルバ

Mar. 2017

の免許はプリフィックスによって分類され、P49はデジタル用恒久免許を示す。

TU5MH Cote d' Ivoire

DF3FS Bertrand, DJ7JC Norbert, DJ9RR Heye, DL8JJ Emilが1月23日～2月2日にコートジボワール共和国 (アイボリーコーストは英語圏の意識で正式名ではない) から運用。ほぼ事前アナウンスどおりの周波数に出てきたので、網を張っていれば見つけるのは容易だったと思う。4局体制で、リグはFLEX-6700, FLEX-6300, K2, TS-590Sにそれぞれリニア・アンプを組み合わせ、ハイバンドのアンテナは18MHzと21MHz用モノバンドVDA, 7～28MHz用パッチカル・アンテナ、2本のCrankIRを使用した。4人でこの設備はすごい。

ハイバンドがJAで聞こえ始めたのは1月23日8JST前、ショートパスの14MHz CWだった。翌24日16STすぎには14MHz CWがロングパスで入感し始め、16:30JSTごろRST 559となりJA指定が始まった。しかしJAからコールバックに関係ない局が呼び続けるためかQSOレートが低く、わずか11 QSOだけしかできなかった。整然と呼んでいけばもっとできただろう。14MHz RTTYは26日16JSTごろからロングパスで入感しRSQ 559でよく復調できたが、16:20JSTすぎにSSBに

QSYしてしまい、JAは6 QSOしかできなかった。最終的な14MHzのQSO数は114で、コンディションとEUの壁に阻まれた感がある。18MHzはさらに厳しく、終わり間際の2月2日16:30JSTすぎに9 QSOできたものの、最終的にはわずか11QSOだった。 @@@



TU5MHチーム
左からDF3FS, DJ9RR, DL8JJ, DJ7JC



オペレート中のDJ9RRとDF3FS (手前)

速報 TL8TT Central Africa

The Italian DXpedition Teamによる中央アフリカ共和国のDXペディションが2月2日から始まった。メンバーはI2YSB Silvano, JA3USA 島本氏を含む7名で、昨年2月～3月の3XY1Tとほぼ同じだ (島本氏は後半参加)。

2日と3日の8JST前後にショートパスで14MHz RTTYがピークRSQ 549で入感したが、3日16:30前後のロングパスはRSQ 579とさらに強力だった。夕方には18MHz SSBがしばしば入感し、5日にはJA指定もあったが弱く、QSOできた局は少ないもよう。

187